

～第6回奄美保健医療圏地域医療構想調整会議の開催結果について～

- ・開催日時 令和2年7月28日（火）午後7時～午後8時40分
- ・開催場所 大島支庁4階大会議室
- ・出席者 24名（代理出席3名を含む）、欠席者 1名
- ・傍聴者 10名（随行者7名を含む）

※質疑，意見等は抜粋

1 協議

(1) 令和7（2025）年に向けた対応方針について

奄美中央病院，大島郡医師会病院，宮上病院の3病院から説明あり。

【奄美中央病院 福崎委員】

<要旨>

病床機能・病床数についての変更なし。リハビリテーション，在宅医療，透析，慢性疾患管理を柱に，地域連携室の役割を強化していく。

<意見>

- ・リハビリも透析も受け皿不足しているため地域住民は大変助かる。
- ・在宅医療について地域との連携不可欠，奄美市としても議論していきたい。

【大島郡医師会病院 眞田委員】

<要旨>

かかりつけ医の支援並びに回復期・慢性期の医療サービスを提供する急性期病院の後方支援機能としての役割を担う。療養病床については慢性期病床を一部回復期リハビリ病床へ転換する。また療養病床を減床し，介護医療院を開設する。

<意見>

- ・介護医療院の開設に伴い介護保険料が上がる事に関しては，少子高齢化の時代では致し方のないことと受け止めている。病院の存続も考えれば理解できる。
- ・療養病床の転換や介護医療院の開設等，国の施策の流れであるが，社会資源や人的資源，住民負担等も踏まえ，この地域で医療介護が成り立つように検討する必要があるのではないか。

【宮上病院 宮上委員】

<要旨>

住民の医療ニーズに応じた専門外来の設置，包括ケア病床の拡大，在宅医療の強化，地域医療連携室の強化を行っていく。病床の機能については，介護医療院への一部転換も視野に入れていく。

<意見>

・人口減少と高齢化が進み地域の介護力が弱くなる中、介護施設等の整備を図ることは重要である。行政、医療機関等の関係機関で地域の保健・医療の課題を話し合いながら、徳之島の地域医療体制を検討していきたい。

奄美中央病院、大島郡医師会病院、宮上病院の3病院の対応方針については、本調整会議で合意された。今後、開設者の変更を含め、構想区域において担うべき医療機関としての役割や機能を大きく変更する場合等、見直す必要が生じた場合には再度本調整会議での協議となる。

(2) その他

「その他の医療機関が行う2025年に向けた対応方針について」の今後の説明順番について【資料2】により事務局から説明

<意見>

特になし

2 その他

(1) 「今年度の調整会議の開催について」事務局から説明

11月上旬と1月頃開催予定

1月は「第7次医療計画（中間見直し）及び第8期介護保険事業（支援）計画の整合性に係わる「協議の場」として開催

(2) その他委員からの意見

- ・県立大島病院では回復期リハビリテーション病棟の開設に向けて検討中
- ・医療と介護の整合性をはかり患者が適切な場所で過ごせる医療介護の提供体制の検討を
- ・離島の住民が安全・安心に住める医療体制の確保を
- ・終末期をどう迎えていくか島民も真剣に考えていかなければならない
- ・高齢化が進むほど介護施設の充実は非常に大事である
- ・第8期介護保険事業計画策定中、地域のニーズに応えながら進めていきたい
- ・口腔内の健康保持により家族の介護負担が軽減するような手助けをしたい
- ・地域医療連携法人及び薬剤師会南大島支部の取り組みについて
- ・看護協会の訪問看護供給体制確保事業、訪問看護師人材確保対策事業について